

Vol.23

# テクノロジーと法の未来へ

FACULTY OF  
GLOBAL INFORMATICS

国際社会が抱える問題を「情報の仕組み」と「情報の法学」の視点で  
分析・解明し、解決策を論理的に構築する、iTL独自の学びに迫ります。

KOGURE  
SHO

## 「iTL」先端的プロジェクト奨学金」で 深める研究

国際情報学部国際情報学科3年／埼玉県立和光国際高等学校出身

こぐれ しょう  
小暮 匠

### AIの学びを経て

私は、情報法を中心に研究を行っている小向太郎先生のゼミに所属しています。入学初期から所属していたiTL AI研究会でAIが社会にもたらす影響について学ぶうちに、法的な視点から情報を捉えることへの興味が高まったため、小向ゼミを志望しました。小向ゼミでは、個人ごとの研究テーマを設定し、メンバー間で各々の調査や研究成果についてさまざまな観点から議論し、研究を進めています。

### 研究について

私は「リーガルテックにおける法的課題」を研究テーマにしています。リーガルテックとは、法務に人工知能などのITを導入し、業務改善・効率化をめざすもので、近年成長が著しい分野です。私はその中でも、人間が作成した契約書の内容を自動でチェックする「AI契約レビューサービス」を中心に研究しています。

「法務」には、弁護士資格を持つ者だけができる業務があります。自動で契約書の内容を審査する「AI契約レビューサービス」は、本来弁護士にのみ許されている業務とも解釈できるため、法的にグレーゾーンなサービスなのではないかとの指摘がありました。

こういった制度上・解釈上の曖昧さは、技術や市場の発展を必要以上に阻害する可能性があります。また、逆に制限がなければ社会的な混乱をもたらす可能性もあるため、「AI契約レビューサービス」について適切な制度設計が必要だと考えています。また、今後のAIの発展を考えれば、現在だけでなく将来を見据えた制度を考える必要があります。私は、研究を通してこの曖昧さを明らかにするだけでなく、今後も対応できる制度を考えることを目標に立てました。

### 学会発表

そこでまずは、AI契約書審査サービスの法的課題に着目し、法務省が公表し

た各種文書を整理してその内容を過去の弁護士法72条違反として争われた裁判例と比較し、位置付けを行ないました。

この研究成果は、2023年2月に情報処理学会EIP研究報告会で発表しました。担当教員である小向先生の丁寧なご指導のおかげで、各論点に対して解像度の高いプレゼンテーションを行うことができましたと感じています。この発表を通して、日本の現状を明らかにすることができました。しかし、現在の制度では、個別の事情をAIに読み込ませ契約書の詳細について修正するサービスは、弁護士法の規定に該当すると考えられます。そのため、技術の発展によっていずれこの課題にぶつかるとはならないかとの問題意識を持つようになりました。

そこで、日本の今後の制度の示唆を得るため、他国の制度を研究対象にすることにしました。また、生成AIの利用が進んでおり、AI契約書レビューのサービスにも影響があることが予想されるため、同時に生成AIによるリーガルテック



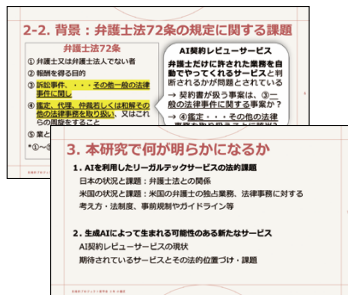
1 ゼミメンバーの同級生と懇親会



2 学会にて小向先生とゼミのメンバー



3 2月の情報処理学会にて発表している様子



4 iTL 先端的项目研究奨学金の審査で用いたプレゼンテーション資料

クへの影響についても調査を進めることにしました。

### iTL 先端的项目研究奨学金

私は、「iTL 先端的项目研究奨学金」の支給を受けて本研究を進めています。「iTL 先端的项目研究奨学金」とは、学生が個人やチームで研究を進めるために必要な資金の補助を目的とした奨学金制度です。私は、ちょうど調査を含めた研究資金をどのように捻出しようかと悩んでいた時期だったので本奨学金に応募しました。

本奨学金の審査は、書類審査とプレゼンテーション審査で構成されています。学会発表を終えた段階で次の研究の論点がある程度見えていたため、研究計画の練り込みには比較的時間を要さず、プレゼンテーションの準備のために時間を割くことができました。

プレゼンテーションの審査員には、メディアや情報分野の先生方もいらっしゃいました。これまで法的な視点でしか捉えてこなかった研究テーマについて、先生方の質疑やアドバイスから学際的な視点が増えられ、研究を見つめ直す機会となりました。

結果として、「iTL 先端的项目研究奨学金 学部長賞」を受賞し、研究に十分な資金をいただくことができました。

### 現在とこれから

現在は研究計画のもと、法務のIT化が進む米国におけるパラリーガル・リールテックの立ち位置・法制度について調査しています。今後は、日本のリールテック（特にAI契約書レビューサービス）の展望を研究し、日本の今後の制度

のあり方を考察できればと思っています。まだ研究は始まったばかりの段階なので、残りの1年半弱を通して良い成果を出せることを目標としています。また、これまで研究を通して培ってきた、常に疑問を持って論点を探る姿勢は、ほかの活動でも活かしていきたいと思っています。